

Table of Contents

I. はじめに

II. 金剛山の語源

III. 曇無竭菩薩の由来

IV. 檜巖の由来

V. おわりに

V. おわりに

区分	内容
檜巖寺 VS ナーランダー 寺	■ インドにあったとされる過去仏・迦葉仏の道場であるナーランダー寺の跡地が檜巖寺跡を模して造られたのか、檜巖寺跡がナーランダー寺を模して造られたのかが、檜巖寺の由来の要となる。これは金剛山の由来を明らかにしてこそ解決できる問題となる。これまで檜巖寺跡がナーランダー寺を模して造られたという研究はあるが、逆にナーランダー寺が檜巖寺跡を模して造られたという研究はない。指空は檜巖寺跡がナーランダー寺に似ているとだけ述べ、どちらの寺跡が先であったかは明らかにしなかった。 ■ もし従来の研究のように檜巖寺跡がナーランダー寺を模して造られたのであれば、あえて指空が2年間も曇無竭菩薩を見に金剛山へ来る理由もなく、檜巖寺跡をわざわざ訪ねる必要もなかったであろう。無学と李成桂が着目したのはこの点であった。朝鮮初期には、指空が間接的にナーランダー寺が檜巖寺跡を模して造られたことを示唆したとみなされたのである。指空が金剛山を見に遠く北京から来た理由もまた、タゴールと同じく金剛山が須弥山であることを確認しに来たことになる。これにより、釈迦仏と弥勒仏の対立のように、金同と指空の対決といった多くの伝説も生まれた。 ■ 本稿は、インドにあったとされる過去仏・迦葉仏の道場であるナーランダー寺の跡地が檜巖寺跡を模して造られたという立場の研究である。従来の研究とは異なり、歴史史料は本稿の趣旨と同様に記述されてきており、近年の伽倻研究や中国の西北工程研究は本稿の論旨を裏付けている。今後の研究が非常に必要とされる分野である。

ありがとうございました